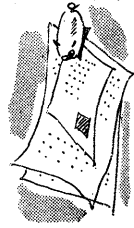


くりかえし



牛 島 義 友

幼児、特に年少幼児はくりかえしが好きである。毎晩同じ昔話を聞いて寝つくし、少しでも話の内容が変わったり中断すると気に入らない。彼らは未知のものよりも既知のものに興味を持つとも云えるが、くりかえして聞くことによつて自分の知識を確認しているとも云えよう。

子どもと云わず人々はたえず変化する雑多な刺激が加えられたのでは落付かず、またそこから何のまとまった知識も形成されない。幼児たちはまず自分のわく組みで外界を認知する。自分の世話をしてくれる人か、無関係の人かによつて、母親とその他の人を区別し、自分の見慣れた物とそうでない物とによつて自分の空間を形造っていく。お話のような知識内容も、まず一定の内容のきまつたものによつて、その認知が確認されてくる。このためには、くり返されるということが必要である。生活行動なども、くりかえされることによつて習慣化され、その動作が身についてくる。特別の努力なしに望ましい行動が遂行される。よい習慣を身につけている方が得である。

* * *

大人の場合のくりかえしも同じであろう。教師にとっては、くりかえし、ということとは余りよい言葉ではないようである。手あかのついた色あせたノートをくりかえして講義するのは、もっとも不評を招くことである。はじめて講義を

する時には、その講義の内容も詳細に書きとめておく必要があるし、一回の講義のために一週間では準備が足らず、前日は夜おそくまでノート作りに苦しみ、それでもなお教壇の上に立つと自信無さに苦しむものである。またこれでよい講義ができたとも思えない。

しかし、同じ講義を五年もくりかえしていると、話の内容を覚えてしまい、メモさえあれば十分で、ノートなどは必要でなくなる。手あかのついた古ノートをくりかえしていると見るのは学生側の偏見であって、恐らくその中には新しい書きこみや、記憶しきれない数字や図表などを、時折り参照されているのであろう。このように同じ講義をくり返していると、講義の内容が身についてくる。はじめの頃は誰がこう云った、彼がこう云った、との他人の学説を伝達しているだけであつたのが、いつの間にか自分の考を述べているような自信に満ちた話ぶりとなってくる。だから、本当はこの方が学生から称讃されてよいはずである。しかもこの場合は講義の準備に追われるということも少なくなり、新しい問題にとりくむ余裕が出来る。毎年新しい講義を開講しようとする、一課目がせい一杯であり、それでも時折り休講でもしないと息が続かない。数課目の授業を受け持っているのは、くりかえしのおかげである。くりかえしは新しい分野の開拓に必要な道具であるとも云えよう。

*

*

*

しかし同じことをくりかえすこと、ピアノの練習曲を反復するのは苦しいことであるし、同じ話をくりかえし聞かされるのは退屈であり、職場で同じ単純作業をくりかえはど人間性を疎外するものはない。

くりかえしは一つの技術や知識を完全に我がものとし、次の段階に上るための準備であつて、その次の目標がたえず用意されていなければならない。